

▶ 消防団員セーフティ・ファーストエイド研修を実施して ◀

埼玉県さいたま市

1. さいたま市のあらまし

さいたま市は、埼玉県の南東部に位置し、都心から20～30km圏内にある県庁所在地です。

平成13年5月1日に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行しました。その後、平成17年4月1日に旧岩槻市との合併を経て、平成28年度にはさいたま市誕生15周年という節目を迎えました。現在は、10行政区に130万人(平成31年4月1日現在)を超える人口を擁し、発展・成長し続ける大都市となりました。

また、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、明治以降は埼玉県の中心として行政、経済、文化を常にリードしてきました。平成12年には、市の中央部に位置する旧国鉄操車場跡地に、関東甲信越地方を所轄する国の機関及びさいたまスーパーアリーナを始めとする、より広域的な行政機能や高次の業務・商業・文化機能を有する施設が集積した新しい街「さいたま新都心」が誕生しました。現在は、関東圏を牽引する中核都市として飛躍しています。

こうした中で、さいたま市消防団は、1消防団64分団で構成され、令和元年8月1日現在、1,216名の団員が一丸となって市民の安心・安全を守るため活動しています。



さいたま市 PR キャラクター「つなが竜ヌウ」

2. 今回の研修実施の経緯について

東日本大震災において、被災地の凄惨な現場で活動していた団員の中には、精神的ダメージにより惨事ストレスを抱える者もいました。この惨事ストレスを放置すれば、うつやアルコール依存、心的外傷後ストレス障害や急性ストレス障害を発症するおそれがあると言われています。

本市では、幸いにして大規模な災害は発生していませんが、通常発生している火災等の現場において、悲惨な体験をすることは大いにあり得ますので、災害救援ストレス対策についての動機付けとともに、万が一、仲間がそういう状態になったときには、適切に対処する術を身に付けることが必要となります。

これらのことから、災害現場等での悲惨な体験や恐怖を伴う体験等により、急性ストレス障害が発生した消防団員に適切に対応するためのPFA、心理的応急処置の基礎知識とその実技を習得することを目的として、「災害救援ストレス研修」を昨年度から開催しています。



3. 研修の概要

本研修は、令和元年7月7日(日)に「さいたま市職員研修センター」にて行い、講師として獨協医科大学埼玉医療センター救急医療科の五

明佐也香医師にお越しいただき、主に班長以上の団員98名が受講しました。

また、団員の受講者の他に消防職員が自主聴講し、当該消防職員にとっても非常に有意義な研修となりました。

研修では、災害時のメンタルヘルスケアについての講義があり、人道支援、災害時のメンタルヘルス、心理的応急処置(PFA)、支援者支援など、様々な観点からの考えや、配慮すべきポイントについて学びました。

受講者の中には、今回の研修内容の言葉を始めて聞いたという方も多くおり、研修開始前は「専門的な知識がなくても大丈夫なのか」などの不安の声もありましたが、始まってみると、専門的な知識が必要なものではなく、話の聞き方ひとつとっても、生活の中の会話などで、普段から相槌の打ち方を意識するだけで誰でも実践できることが理解でき、「受講してよかった」という声を多く聞くことができました。

また、支援者である消防団員自身に対するメンタルヘルスケアの講義、そして声の掛け方や接し方などをロールプレイング形式で実施し、「傾聴」することが大切であるということをお伝えいただきました。

さらに、受講者を実災害の救助者、要救助者などに割り当てて実施したことにより、歓声が



上がるほど盛り上がる場面もありました。



4. 研修を終えて

研修を終えた団員の方のアンケートでは、「今後のために、具体的に考える機会を持って良かったと思います」「セルフケアについて、災害時のみならず、日頃の生活でも意識していきたい」「今回の研修で学んだことを家族や自治会でも伝えていきたい」など、意欲的な意見が多くあり、研修で得たことをその場で終えるのではなく、研修後にフィードバックしていきたいという声を多数いただくことができました。今回参加できなかった団員に対しても、普段の研修や訓練の中で共有していければと思います。

また、「研修を継続して多くの団員が受講できるようにしてほしい」との意見も多数あり、研修のねらいにもありました。災害救援ストレス対策について、認識を深める「動機付け」とすることができました。今後も、受講者数や受講回数増加を検討し、継続して実施していきたいと考えています。

最後に、本研修の実施にあたり熱心にご講義をいただいた、五明佐也香医師、細部に渡りご配慮をいただいた、消防団員等公務災害補償等共済基金に御礼を申し上げます。今後とも、ご指導くださるようお願いいたします。